

【学校だより より】

平成28年度学校評価（後期）について

平成28年度後期学校評価に係るアンケートにご協力いただきありがとうございました。児童生徒や保護者の皆様、学校関係者の皆様から頂きましたアンケート結果を、第3回学校運営協議会で報告いたしました。委員の皆様からいただきましたご意見を踏まえ、桃陽総合支援学校の教育活動について、分析・考察を行いました。

【学習について】

先生は質問に丁寧に答えてくれると評価している児童・生徒は90%以上おり、ICTを使って学習するとわかりやすいという声とともに「勉強はよくわかる」という評価につながっていると考えます。学校運営協議会委員の方から、ICTの導入により制限のある子どもたちの学習環境が飛躍的に広がったことを実感しているとのご意見をいただきました。また、学生ボランティアが制作した「算数・数学の問題解法」の動画についても紹介いただきました。

【自己肯定感について】

「学校生活は楽しい」と答えた児童生徒は、小学生86.3%中学生83.3%で、前期よりも肯定的にとらえている児童生徒が増えています。児童生徒会を中心に重点を決めて取り組む週間を実施してきたことや、児童生徒自身が考えて各学部の行事に取り組んできたことが、肯定的な評価につながっていると考えます。

「自分にはいいところがある」という質問に対し、「そう思う」「ややそう思う」と答えた小学生が前期と比較し31.5ポイント増えていることから、力を発揮する場を大切にしていきたいと考えます。一方、中学生は前期に比べ肯定的に答えた生徒が減っています。受験期の不安、今後の自分に対する不安を抱きがちな時期であることを踏まえた、指導・支援の必要性を確認しました。

学校運営協議会委員の方からは、学校祭や研究発表会での児童生徒の活動について、自分たちで工夫し、やりきっている姿を評価していただきました。

【コミュニケーションについて】

保護者や学校関係者の皆さんからの回答では、「子どもが相手に伝わるように話す」「話をしっかり聞く」という項目に対してプラスの評価が増えており、子どもたちが力をつけていることを評価していただいています。

子どもたち自身も「相手の気持ちを考えて行動している」項目について肯定的にとらえていることから、コミュニケーションにかかわる項目について、すこしずつ成長が見られるのではないかと考えます。引き続き、人とのやりとりについて教職員も含めてモデルを示し、実践する中で児童生徒が自己発信し、受け止められる場の設定をしていきたいと思ひます。

【教職員の自己評価について】

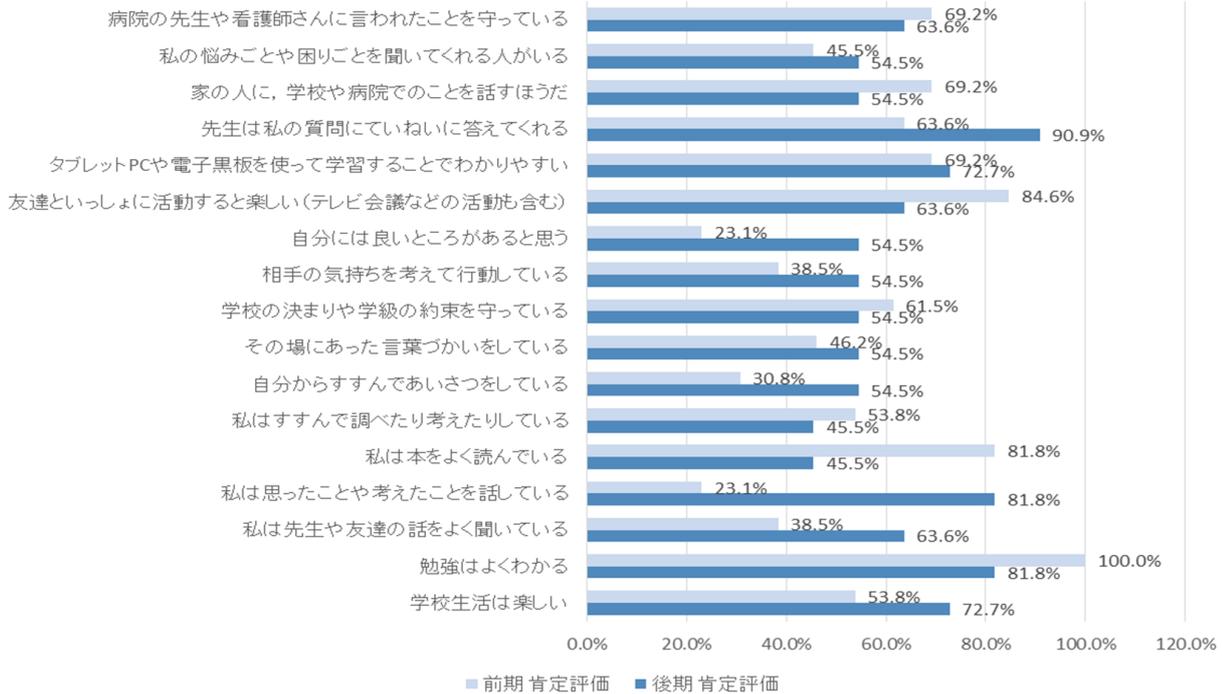
「個別の包括支援プラン」に基づき授業計画を立てることや、懇談やカンファレンスに活用することはできていると答えた教職員は70%でした。けれども、適切な修正・更新が不十分であると答えた教職員が50%おり、より有効に活用したいと考えていることが分かります。

個に応じた個別の包括支援プラン作成の実現度は、高まってきました。作成したプランを修正・更新しより有効に活用するため、ケース会議や研修を重ねていきたいと考えます。

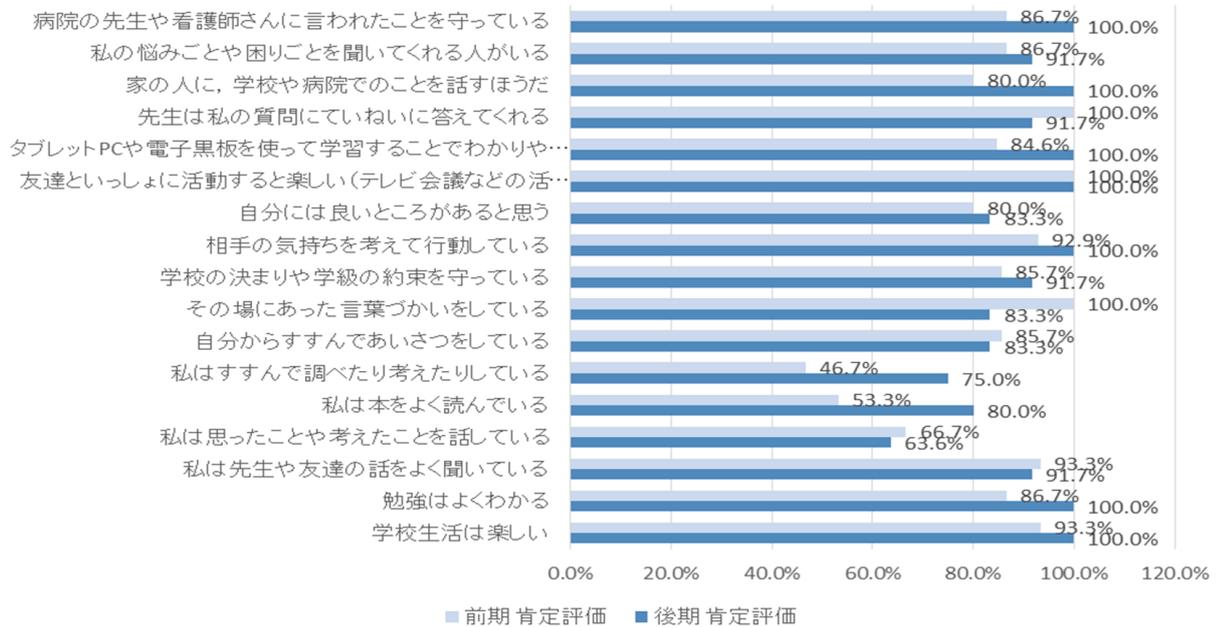
アンケートや学校運営協議会でいただいたご意見、アドバイスを、今後も保護者、学校関係者のご協力をいただきながら学校教育活動に活かしていきたいと思ひます。

以下に前・後期のアンケート結果の比較を掲載します。

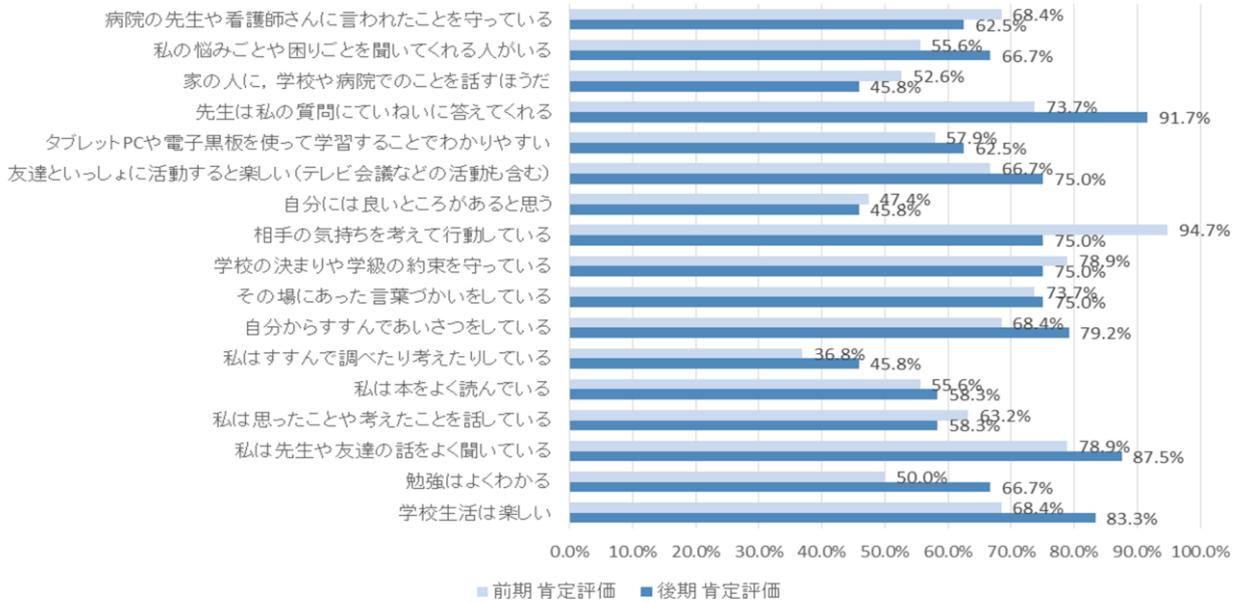
本校小学部



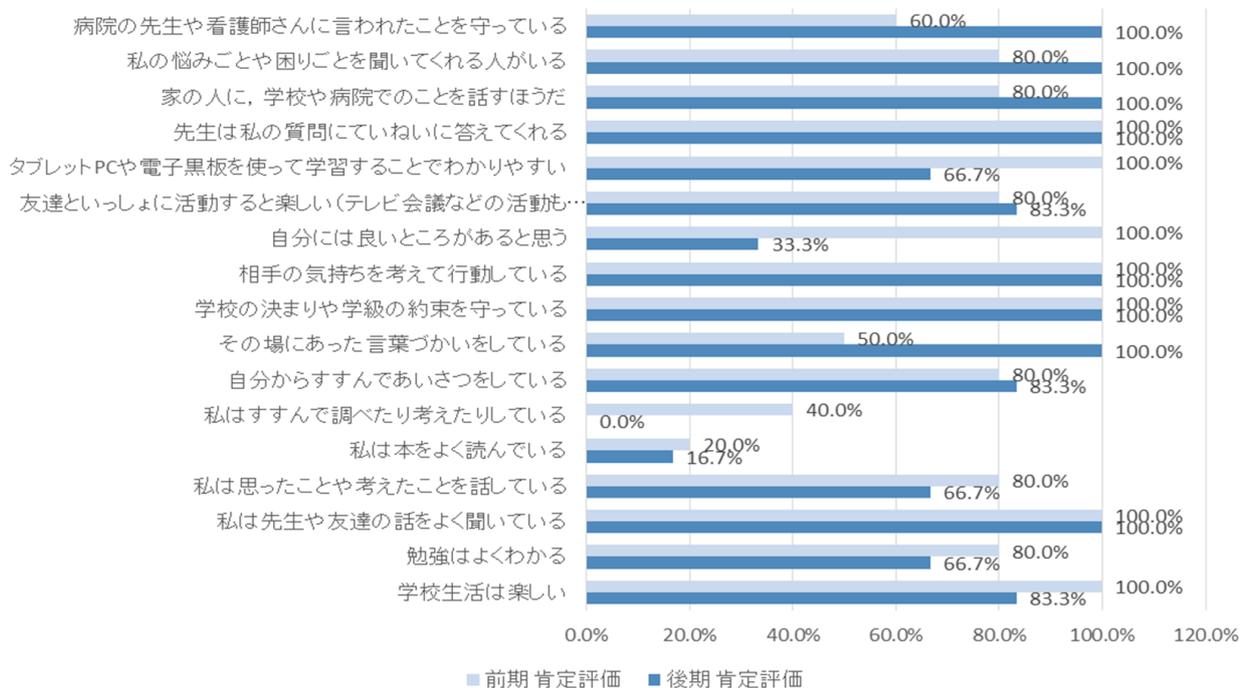
分教室小学部



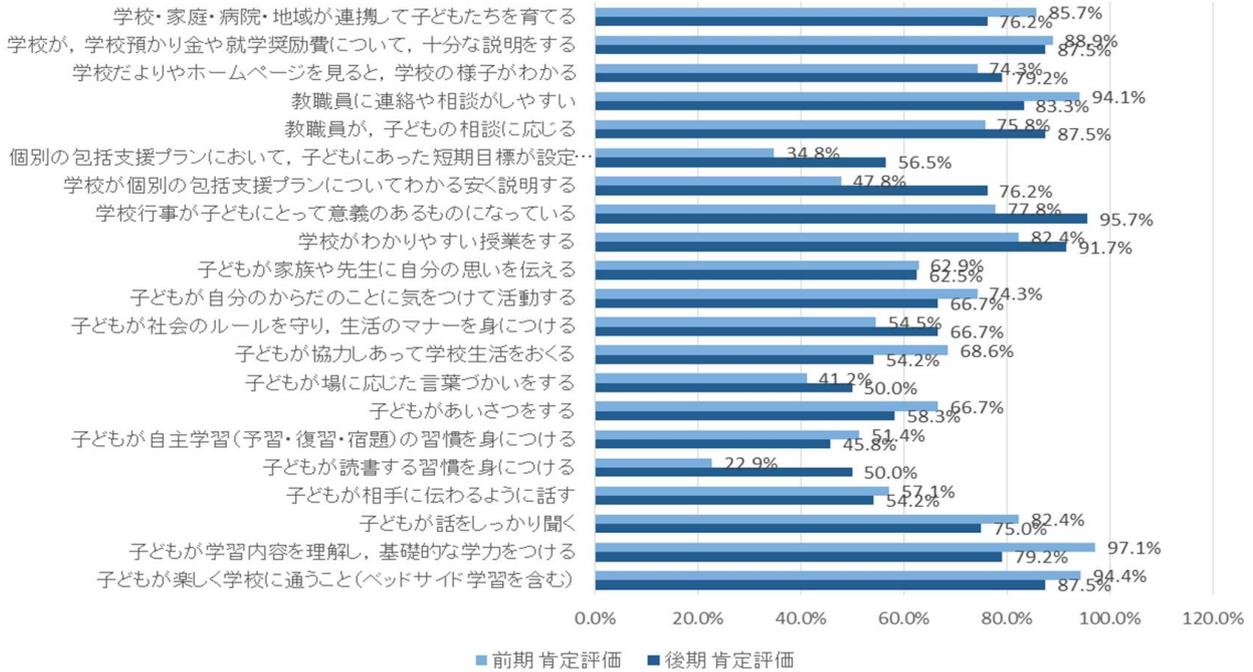
本校中学部



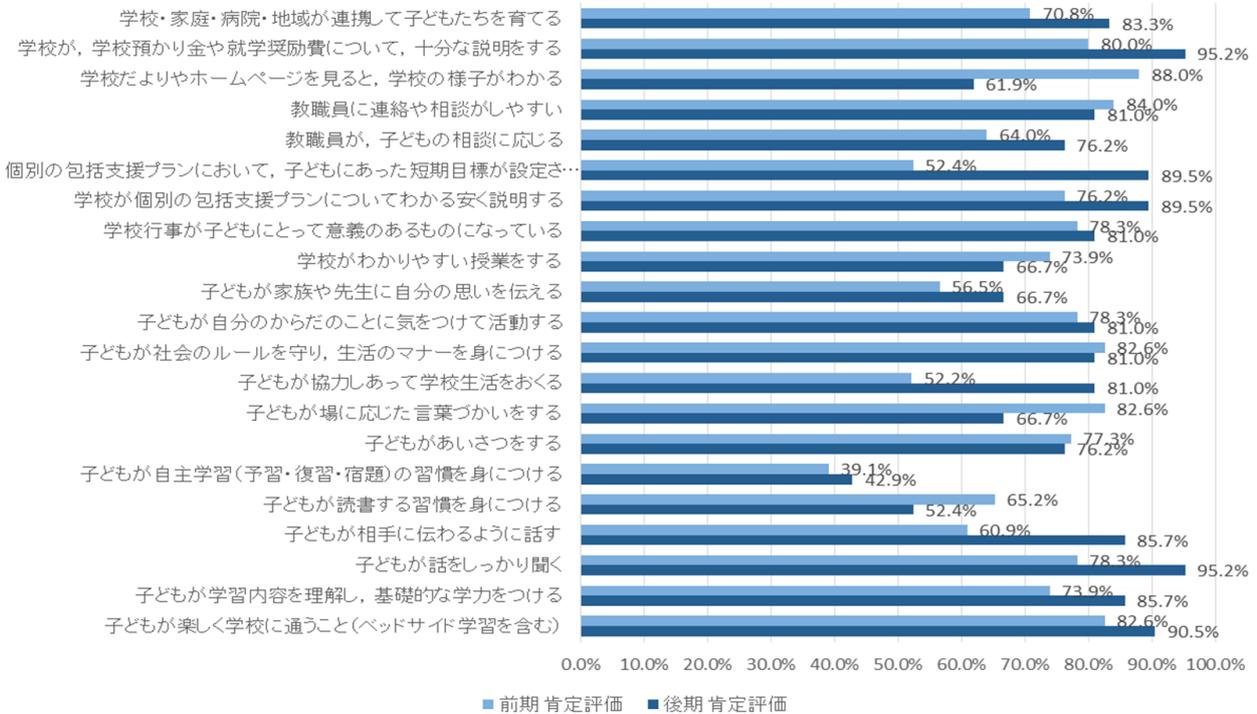
分教室中学部



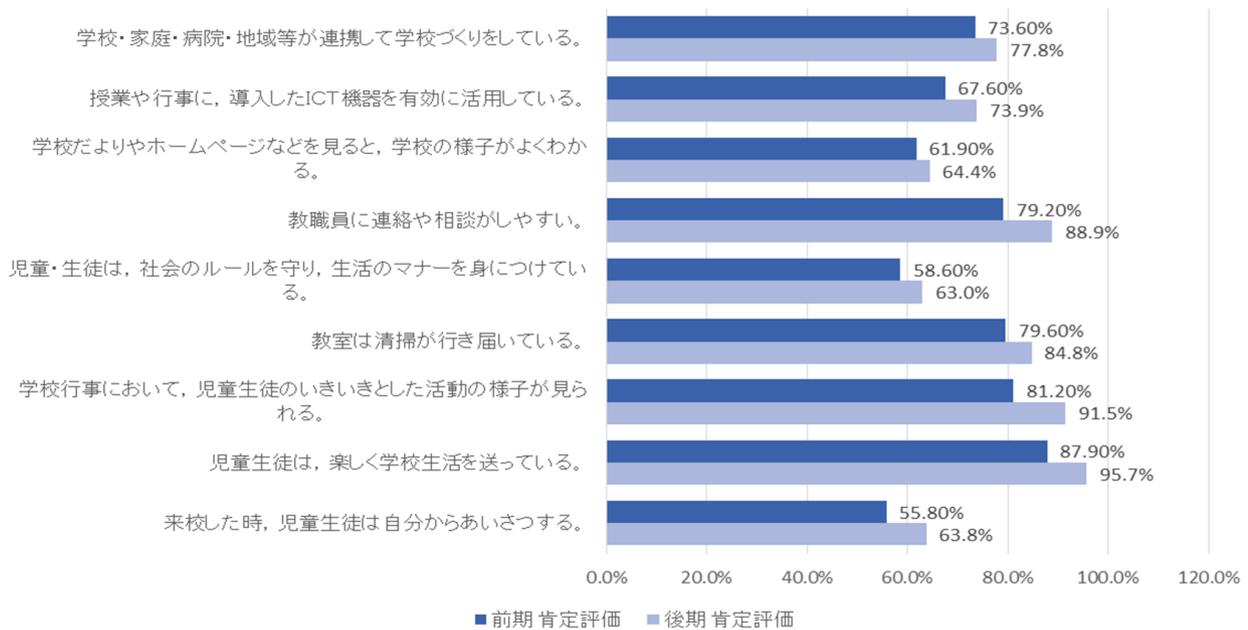
小保護者



中保護者



学校関係者



教職員

